

釧路・阿寒のアドベンチャーツーリズム・ ひがし北海道周遊のゲートウェイ



喫緊の課題である
駐車場不足を解消する容量拡大

出到着便が同時受入れ可能な
国際線専用施設(増築)



雄大な釧路川を想起させる到着ロビー
魅力的な商業施設を備えた
国内線旅客ビル施設(改修)



釧根地域の魅力を集積した商業エリア

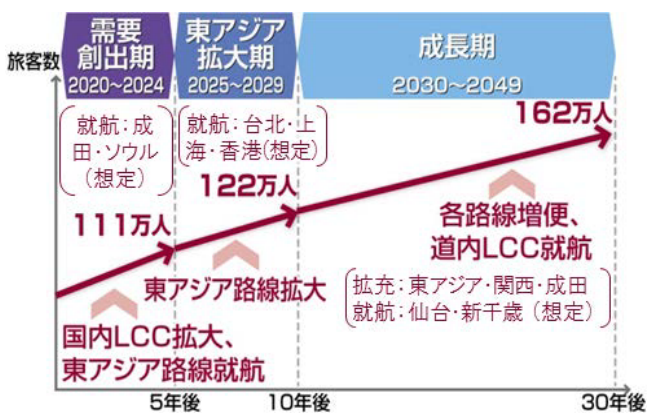
釧路空港の
30年後の将来イメージ

■ 釧路空港の目標値

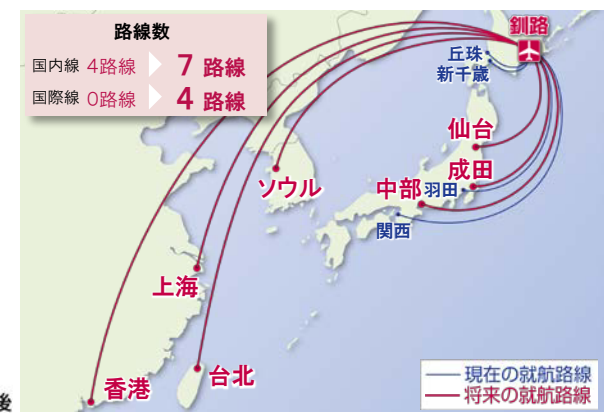
	2017年度	2024年度 (5年後)	2049年度 (30年後)
旅客数	75万人	111万人	162万人
国内線	75万人	100万人	140万人
国際線	0万人	11万人	22万人
貨物量	24百トン	31百トン	36百トン

(※四捨五入により合計が合わない場合がある)

■ 釧路空港の成長ステップ



■ 釧路空港の航空ネットワーク(30年後の想定)



(※現在の就航路線は季節運航便を除く)

航空ネットワークの充実

■ 国内LCC路線の拡充と国際線ネットワークの構築

- ひがし北海道の潜在需要を拡大する、地域ゲートウェイとしての役割
- 広域周遊観光の促進により東アジア路線を誘致
- 国内LCC路線(成田、関西、新千歳等)を拡充し、新規需要を創出
- 季節繁閑差・新規就航等のエアライン負担を低減する料金体系の導入

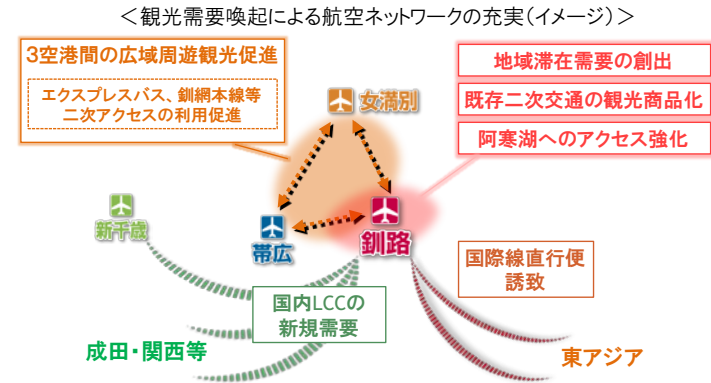
■ 地域一体での需要喚起と広域周遊観光の環境整備

- 自治体や釧路・阿寒エリアのDMOと一体となった地域の魅力向上・発信
- エクスプレスバス・都市間バス等を活用した釧路・女満別・帯広3空港間の広域周遊観光の促進
- 釧網本線の観光利用促進と沿線地域の観光活性化による網走方面との観光流動の促進

地域との連携・地域共生

■ アドベンチャーツーリズムの推進・地域との共生

- 地域と連携し、「アドベンチャーツーリズム」を取り入れた体験型観光の推進により地域に滞在する需要を創出
- 滞在日数増加に向けた既存二次交通の観光商品化や阿寒エリアとのアクセス強化
- 地域共生事業の拡充や地域の人財育成への協力



空港施設運用

■ エアライン受入環境・利用者利便性の向上

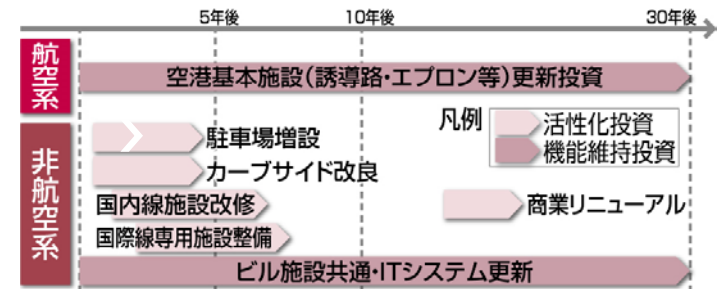
- 運営開始1年以内に駐車場容量拡大を先行実施(①)
- 国際線出発・到着便の同時受入が可能な専用施設を整備し、成長基盤を概成(②)
- 国内線保安検査場を拡張

<30年後の施設等配置図(案)>



■ 設備投資戦略(30年間の投資総額(想定)約224億円)

- 運営開始当初5年程度で30年間の成長基盤を概成



■ 空港全体のショーケース化

- 自然等の観光資源をモチーフに地域を表現する空間を創造
- 国内線商業エリアの大幅な拡大・リニューアルにより地域の魅力的なグルメリメ・物販を集積
- 幅広い旅客ニーズに応える観光コンシェルジュを設置